



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2020～2021年度 RI会長 ホルガー・クナーケ
RIテーマ ロータリーは機会の扉を開く

クラブテーマ「思いはひとつ」

会長 加藤正幸

副会長 米山晴敏 幹事 服部光弥

第1457回 例会
2020.9. 4(金)晴

司会:大庭靖貴君 指揮:
ローターソング「奉仕の理想」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 加藤正幸君

おたまちゃん食堂9月2日Pm5時、生涯学習センター5F調理室にて、岡氏、藤川氏、服部氏が顔出し参加してくれました。親子で参加テイクアウト50食支度しおかず(卵の花・玉子焼きなど)と炊き込みご飯、子供にはお菓子セット渡しておりました。ボランティア7名、午後より準備してくれてました。心をこめてお疲れ様でしたと伝えておきました。

アフリカでポリオ根絶宣言

ロータリークラブで念願のポリオ撲滅運動があと少しで終息するところまでできました。ナイジェリアで、過去4年間に確認されず終息したと判断。感染が続くのは、アフガニスタンとパキスタンの2カ国になりました。早く終息出来る事を願っております。

話は変わって・・・空飛ぶクルマ

いよいよ夢の世界が現実に・・・NEC「空飛ぶクルマ」試作機の浮上実験に成功

トヨタ系「スカイドライブ」有人飛行報道陣に公開機体の安全基準や運航全域など政府のルール整備が必要米モルガンスタンレー予測では空飛ぶクルマの市場は40年までに160兆円に拡大すると報告

NECは航空管制システムの開発を検討している機体の安全基準などは最終的には国際的な擦り合わせが行われるとみられ考え方をいち早く固めた国・地域が国際的な議論を主導する可能性がある。

このため日本は国交、経済産業両省が中心となり、23年までに必要な国内制度をつくる考え。

今日の料理



出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	26/32	81.25%	26/32	81.25%
今回	24/32	75.00%	会員総数	33名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

遠藤君、鈴木君、田中君、中村君、中本君、中山君、山口(雅)君、渡邊君

(*出席免除会員の欠席者 片野君)

おめでとう

会員誕生日	9月5日	原 兄多君
	9月5日	篠木喜世君
	9月6日	宮澤正昭君
	9月9日	服部光弥君
	入会記念日	9月16日



スマイルボックス

山口辰哉君:今日は久しぶりに富士山が見えました。何となく空気が澄んで風が秋らしくなってきました。

伊丹雅治君:本日早退させていただきます。篠木さん、すみません。

幹事報告

幹事 服部光弥君

①次週「夏の家族会」のため 11日(金曜日)から13日に変更になっています。多くの参加をお待ちしております。

②例会終了後 9月理事役員会を開催します。

卓話

篠木喜世君

本日は「教育における平等」の考え方と「支援」について、私の考えをお話したいと思います。

【教育における平等】とは

縁あって幼児教育に携わる仕事をしていますと、「教育における平等とは何だろう」と考えることがあります。日本と欧米とでは「平等」に対する考え方が真逆だと感じる時があります。

日本では、クラスの子全員に対して一斉に授業をし、全員に同じ宿題を出すことが、子どもたちを平等に扱っているとみなされます。一人一人に違う宿題を出したら、すぐに親から「あの先生は、うちの子がわかってないから簡単な宿題を出し、できる子にはレベルの高い宿題を出している。ひどい！どうしてみんなと同じ宿題を出してくれないんだ！うちの子が出来ないからと差別しているのか！」とクレームが来るのではないのでしょうか。しかし国が違えば、一人一人がその子に合った環境でわかるまで教えてもらえるのが「教育における平等」だと考えます。クラスでわかっていない子かいてもどんどん授業を進めて、一人一人苦手なところが違うのに同じ宿題を出していたら、「誰でも自分がわからないことを分かるまで教えてもらう権利、平等に教育を受ける権利があるのに、あの先生はみんなに同じ宿題を出している。わかるまで教えてもらう権利があるのに、うちの子にはそれをしてくれていない！移民だからと差別しているのか！」とクレームが来る国もあるのです。クラス全員に同じ宿題を出すのが子どもたちを平等に扱っていると考える文化と、一人一人のレベルに合った宿題を出すのが子どもたちを平等に扱っていると考える文化…その差はどこから来るのでしょうか。

また私の実体験からも、「平等とは？」と考えさせられたことがあります。同じぐらいの発達レベルのダウン症の男の子がいました。一人の子の保護者が自分の子どもに合った環境で、この子のレベルに応じて教えてくれる環境を」と考え、今でいう支援級の進学を決めました。もう一人の子の親は先生、うちの子に障害があるからと差別しないでください。ついていけないのはわかっています。でもみんなと同じに40分、あの教室に座ってられるようにしてください。うちの子を差別しないで平等に扱って下さい」と言って、普通学級への進学を決めました。6年後、支援級に行った子は、「先生、ぼくは、六年生になりました。こんど、あそびに行きます。」と暑中見舞いを書けるくらいになりました。毎日認められ励まされて育ち、笑顔が素敵で思いやりのある優しい男の子に成長しました。一方普通学級に行った子は、手に大きな咬みタコがある、暗い子になっていました。幼児期のあの屈託のない笑顔は消え去り、「**ちゃん、バカ。**ちゃん、バカ」と自分の名前をブツブツ言いながら、電信柱から電信柱へと隠れるように伝い歩きして登下校するだけの、自信も気力もない、もちろん字を書く意欲すらない、心が荒んだ男の子に成長していました。どちらの親も我が子のために思ってその子に障害があっても「平等」に教えてもらえる環境を選んだはずなのですが、結果は大きく違っていました。

「教育における平等」を考える時に、中心にあるのは子ども自身であるべきです。その視点がずれると本質を見失ってしまいます。ちなみ桜ヶ丘幼稚園は、モンテッソーリ教育を軸に、一人一人の個性に応じた幼児教育を大切にしています。どの子も楽しく達成感を重ね、自己充実感のある子に育っていく事を目標としています。コップに半分しか水がないのを見て、「なんで半分しかないんだ、いっぱいじゃなきゃいやだよ、いっぱいよしてよ！」と不平不満を感じるか、「お水半分になっちゃったね。でも、まだ半分あるから、あっちで虫探しをしよう！」と考えるかで、人生は大きく違ってきます。「物事の良い面を見つけて感謝して前向きに生きぬく力を育てる」…それが桜ヶ丘幼稚園の教育目標です。

次に「支援」とは何かについて、私の考えをお話します。私は小学校6年から高校にかけて、一時期大変経済的に困窮した時期が

ありました。私の通っていた教会には、東南アジアで日本兵が産ませた混血児を日本に呼び寄せ、数年間学校に通わせて資格や技術を身に付けさせるといふ支援を行っていました。小さな寮があり、皆で食事を作って近隣の貧しい人たちと共に食事をしていました。我が家も何度もお世話になりました。「お金や物を送るのは簡単だ。でも本当の支援とは、彼らが自分たちの力で生活を豊かにし、いつかは(インドネシアなどの)母国に貢献できる人間になるように援助することだ。」と牧師先生はいつも言っておられました。成人してから私はいろいろな形で自分なりに、社会貢献や困っている人の支援と思えることを行ってきました。その原点は、「今に感謝して努力する気持ちのある人たちに、少しでも笑顔でいてもらえるような支援を…」という想いです。コップに半分しかない水でも希望を持って見つめることが出来るなら、必ず未来は開けると思っています。教会の牧師先生以外にも私が「支援」の意味を教えられたのは、中村哲氏の生き方でした。内戦と干ばつに苦しむアフガニスタンに、先進国は大量の支援物資を投下しました。でもいくら支援物資を投入しても、物ではアフガニスタンの人々は救えませんでした。そのような中で中村哲氏は、武器を持つ手をシャベルやスコップに替えて用水路を引く工事をしようと呼びかけ、20年以上かけて広大な砂漠を豊かな農地に変えたのです。人々が自ら農作物を作り家畜を飼うことが出来るようにすること、物をもらうのではなく作り出すことが出来るようにすることが、本当の「支援」だと中村氏は考え行動したのです。中村氏を通して、本当の支援とは何かを、また一つ教えられました。平等や福祉や支援と言った言葉は耳にしますが、大変奥の深い言葉であると思います。私自身は小さな存在ですがこれまでの経験を大切に、残りの人生、少しでも誰かの役に立てるように努力していきたいと思っています。

第3回理事役員会報告

2020年9月4日(金) 19:30~20:00 呉竹

出席者 加藤、山田、米山、小林、大庭、大村、藤川、仲原、宮澤、篠木、原、服部

*会長あいさつ

例会、大変お疲れさまでした。議事も多数ありますのでよろしくお願ひいたします。

1・議題

①豪雨災害への支援(2720地区・2700地区)報告の件(社会奉仕委員会)

皆様の善意で2720地区 30,000円、2700地区 30,000円集まりました。指定口座へお振込みさせていただきます。承認

②休会届(田中錦城君)の件(幹事)

12月31日まで出席規定の適用免除とする(定款第12条第6節)承認

③移動例会の件(幹事)

10月第3例会(10月16日)みしまプラザホテルにて開催予定承認

④会員慶事(仲原君・大庭君)の件(会長)

内部規定第4条(3)イ 適用 承認

2・連絡依頼事項

①オンライン例会について(公共イメージ向上委員会)

只今、例会の動画を撮影してYouTubeへアップしてオンライン例会の準備中です。

②おたまちゃん食堂活動予定(社会奉仕)

9月15日・22日 錦田公民館にて(詳細は後日、連絡配信)

③カンボジア渡航等の近況報告(国際奉仕)

渡航についてはまだ流動的。支援については公衆衛生支援として井戸掘削進行中。

当初11月渡航予定でしたが状況を鑑みて延期もあり得る。

④10月第2例会(米山記念館移動例会)(幹事)

当日は裾野RCとの合同例会となります。進行等全て裾野クラブが担当します。多数の出席をお願いいたします。